

周波数設定ボード F I X - P C L 8 5 0

1. 概要

F I X P C L 8 5 0はプログラマブルDDSオシレータ、P C L 8 5 0の周波数の設定を容易にする治具です。ボード上の9個のBCDスイッチで任意の周波数の設定ができるほかメモリーチャンネルの書き込み、読み出しが行なえます。またRS - 2 3 2 Cのインターフェースを備えているのでパソコンのシリアルポートに接続して設定を行なうことも可能です。

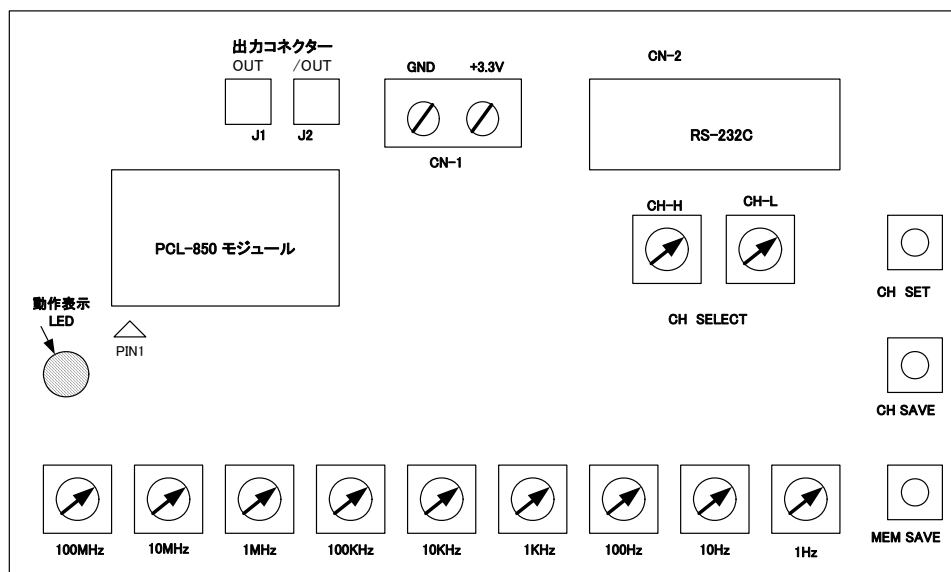
2. 仕様

電源電圧	3.3V ± 5%
消費電流	300mA 以下 (PCL850を実装した時の状態にて)
出力コネクタ	50 SMBタイプ 適合コネクタはSMB(C05)型プラグまたは ヒロセ電機UMプラグが使用できます。
シリアル仕様	D-SUB9ピン メス PCのシリアルポートとの接続にはストレートケーブル を使用します。レベルはRS - 2 3 2 Cです。 通信条件はPCL850の仕様書を参照してください。

RS - 2 3 2 Cコネクタピン配置

ピン番号	信号名	信号方向	備考
PCL-850<-> terminal			
1	CD	->	connected to DTR internally
6	DSR	->	connected to DTR internally
2	RD	->	
7	RTS	<-	not used
3	TD	<-	
8	CTS	->	connected to DTR internally
4	DTR	<-	“ CD,CTS,DSR “
9	RI	->	not used
5	GND	<->	

3. ボードの配置



4. 使用方法

(1) B C D SWでの周波数の設定

P C B上にある9個のB C Dスイッチで希望する周波数を設定します。

M E M S A V Eスイッチを押せばP C L 8 5 0に現在の周波数を記憶させることができます。P C L 8 5 0を単体で使用する場合に電源投入時に出力される周波数を記憶させることができます。C H S A V EスイッチはP C L 8 5 0のメモリー(64CH)に周波数を記憶する場合に使用します。メモリーCHは16進2桁のB C Dスイッチ(CH SELECT)で00hex~3Fhex(10進で0~63)までの範囲で選択してください。C H S E TスイッチはP C L 8 5 0に記憶された周波数を呼び出し設定する時に使用します。

(2) シリアルデータでの設定

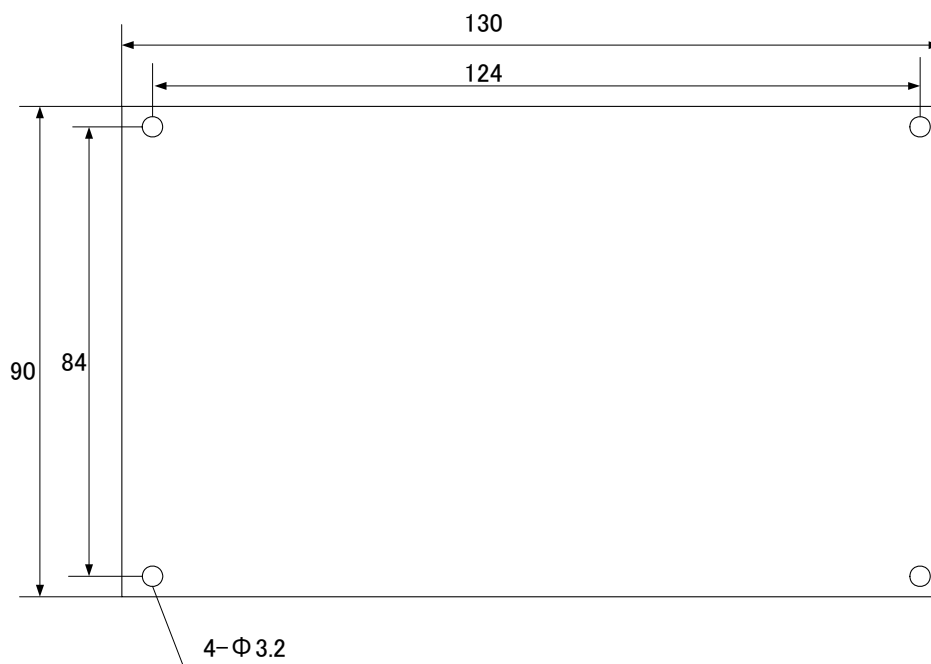
このボード内にはR S - 2 3 2 Cのインターフェースが内蔵されていますのでP Cの通信ポートとC N 2をストレートケーブルで接続してシリアルデータで設定することが可能です。シリアル通信での周波数設定方法はP C L 8 5 0の仕様書を参照して下さい。

(3) L E Dの表示

L E Dは正常動作の時は点灯しています。

B C Dスイッチで周波数を設定した場合とM E M S A V E / C H S A V Eスイッチを押した場合は一瞬だけ点滅します。P C L 8 5 0が正しくソケットに挿入されていない場合や通信が正常に行なわれない場合はL E Dは連続して点滅します。

5 . 外形寸法図



設計、製造、販売

(株) ディエステクノロジー

〒351-0022 埼玉県朝霞市東弁財 1-7-30

TEL : 048-468-6094 / FAX : 048-468-6210

URL: <http://www.dst.co.jp/>

Mail: info@dst.co.jp